

平成 1 1 年度試験研究成果

区分	指導	題名	新ランドレース種系統豚 F 1 母豚の繁殖能力		
<p>[要約] 平成5年より開始したランドレース種の系統造成は、H12年度で完了する。そこで、新系統豚の F 1 母豚 (L × W) の繁殖能力について調査した結果、初産時能力で一腹産子数10.2頭、離乳頭数8.5頭、離乳体重(2 1 日令) 6.28 K gであった。</p>					
キーワード	豚	系統造成	繁殖能力	畜産研究所 家畜育種研究室	

1. 背景とねらい

新しいランドレース種系統豚として、従来の産肉性を中心とした選抜形質に加えて肢蹄の強健性も取り入れた「飼いやすい」新系統豚を造成に取り組んでいる。新系統豚の普及にあたり、第5世代の造成途中豚を用い生産現場で利用される F 1 母豚 (新系統豚 × ハヤチネ W) の繁殖能力を調査したので参考に供する。

2. 技術の内容

(1) 産子数

新系統豚 × ハヤチネ W の F 1 母豚の初産時産子数は自然交配で 1 0 . 2 頭 (交配時月齢 7 . 9 ヶ月)、人工授精で 9 . 7 頭 (交配時月齢 8 . 1 ヶ月) である。(表 1) 現在農家で利用されているハヤチネ W × ゼンノー L 及び以前に利用されていたハヤチネ W × ハヤチネの F 1 母豚との比較においても同等の能力である。(表 2)

(2) ほ育能力

ほ育開始頭数 9 . 3 頭に対し離乳頭数が 8 . 5 頭であり育成率は 9 1 . 4 % と良好である。離乳体重は 2 1 日令離乳で 6 . 2 8 K g で離乳時の目標である 6 K g を上回る。また、分娩時母豚体重 2 0 8 . 5 k g に対し離乳時母豚体重は 1 8 0 . 8 K g で、分娩・ほ育による体重の減少は 1 4 % であり、順調な発情回帰を得るための 2 0 % 以内にある。

3. 指導上の留意事項

- (1) F 1 母豚の育成は体重 8 0 K g 前後より制限給餌とし、8 ヶ月令で体重 1 3 0 K g を目標とする。
- (2) 初回交配時の月齢は概ね 8 ヶ月令とする。早い時期の交配は産子数が減少する傾向がある。
- (3) 三元交雑肉豚の産肉能力調査については H 1 1 ~ 1 2 年に実施する。
- (4) 系統造成は 1 2 年度に完了し 1 3 年度に認定を受け、F 1 母豚の供給は H 1 4 年度からの予定。

4. 技術の適応地帯 県下全域

5. 当該事項に係る試験研究課題

養豚 1 - 1 - (2) - ア高能力・高品質・斉一性の高いランドレース種の系統造成 (H 5 ~ 1 2)

6. 参考文献資料

- (1) 県畜産試験場試験成績書 (平成 5 ~ 7 年度)
- (2) 県農業研究センター畜産研究所試験成績 (平成 8 ~ 1 0 年)

7. 試験成績の概要

表1 F1母豚(新系統豚L×ハヤチネW)の産子数(平均値±標準偏差)

	人工授精	自然交配
n	10	31
交配時月齢	8.1±0.8	7.9±0.7
産子数	9.7±2.5	10.2±3.0

表2 交配組合せにおけるF1母豚の産子数の比較(平均値±標準偏差:農業大学校)

	新系統豚L×ハヤチネW	ハヤチネW×ゼンノーL	ハヤチネW×ハヤチネ
n	23	11	7
交配時月齢	8.0±0.8	7.7±0.8	8.3
産子数	10.5±3.7	10.5±3.0	11.0
補正産子数	10.3±0.6	10.7±0.9	10.4

注)補正産子数は交配時月齢との回帰により補正したデータ

ハヤチネW×ハヤチネはS63年に実施

表3 F1母豚(新系統豚L×ハヤチネW)のほ育能力(平均値±標準偏差)

n	生時	ほ育開始	離乳	離乳体重	育成率	分娩時	離乳時
	体重	頭数	頭数	Kg	%	体重	体重
10	Kg 1.56±0.25	頭 9.3±2.5	頭 8.5±2.6	Kg 6.28±1.12	% 91.4	Kg 208.5±17.3	Kg 180.8±17.7